

嬉野小校区地域コミュニティ運営協議会

事務局だより

第26号

発行日・平成27年8月27日



平成27年8月21日(金) 午後7時30分より「認知症サポーター

養成講座」を開催しました。

当日は、雨が降ったり止んだりの足場の悪い天気でしたが、27名の受講者がありました。講師は、宅老所「ひなた」と「しきなみ」の2か所の宅老所の代表 西野弘子氏です。

「認知症とは?」から始まり 認知症の人はどれくらいいるの? 「老化によるもの忘れ」と「認知症のもの忘れ」の違い 認知症のサイン 認知症の人の「気持ち」を考える

認知症の人との接し方、支援の三要素①より良い介護環境②適切なケア③薬による治療また、暴言暴力、妄想、徘徊の対応など1時間程度の講習でしたが、皆さん熱心に受講されました。

講師から、皆さんは、「認知症」と「寝たきり」のどちらか2つに1つを選択しなくてはならないとしたらどうしますか?の問に対して、どちらにもなりたくないのが本心ではないかと返答されていた。



受講者から、「認知症の予防はどうしたらいいか?」に対して進行を遅らせる薬はあります。しかし、高齢者の合言葉「きょういく、きょうよう」今日行く所がある。今日用事がある。と言った順応性のある日常生活を送ることが大切です。

歳を重ね目や耳や体が不自由になるとメガネや補聴器・杖等の道具を使って生活することになります。認知症の人を支える道具は皆さんの暖かい声掛けや眼差し・見守り等の支援です。

地域の方が認知症の人とその家族を支える応援者となり誰もが安心して暮らせる町づくりを皆さんの手で展開しましょう。で講座を閉められ、嬉野小校区地域コミュニティ運営協議会 健康福祉部会 会長 田中 信之の謝辞で閉会しました。

ちょっといい話のコ

【作詞】不詳

【訳詞】角 智織

【日本語補詞】樋口 了一

【作曲】樋口 了一

手紙 ～親愛なる子供たちへ～

年老いた私がある日今までの私と違っていたとしてもどうかそのままの私の事を理解してほしい。私が服の上に食べ物をこぼしても靴紐を結び忘れてもあなたに色んな事を教えたように見守って欲しい。あなたと話す時同じ話を何度も何度も繰り返してもその結末をどうかさえぎらずに頷いて欲しい。あなたにせがまれて繰り返し読んだ絵本の結末はいつも同じでも私の心を平和にしてくれた。悲しい事ではないんだ消え去ってゆくように見える私の心へと励ましの眼差しを向けて欲しい。楽しいひと時に私が思わず下着を濡らしてしまったりお風呂に入るのを嫌がる時は思い出して欲しいあなたを追い回し何度も着替えさせたり様々な理由をつけて嫌がるあなたとお風呂に入った懐かしい日の事を悲しい事ではないんだ旅立ちの前の準備をしている私に祝福の祈りを捧げて欲しい。いずれ歯も弱り飲み込む事さえ出来なくなるかも知れない足も衰えて立ち上がる事すら出来なくなったら貴方がか弱い足で立ち上がろうと私に助けを求めたようによろめく私にどうかあなたの手を握らせて欲しい。私の姿を見て悲しんだり自分が無力だと思わないで欲しいあなたを抱きしめる力がないのを知るのは辛い事だけど私を理解して支えてくれる心だけを持っていて欲しいきっとそれだけでそれだけで私には勇気がわいてくるのですあなたの人生の始まりに私がしっかりと付き添ったように私の人生の終わりに少しでも付き添って欲しいあなたが生きてくれた事で私が受けた多くの喜びとあなたに対する変わらぬ愛を持って笑顔で答えたい
私の子供たちへ愛する子供たちへ



作詞者:不詳 ポルトガル

歌詞はポルトガル語で書かれており、作者不詳（読み人知らず）。樋口了一の友人、[角智織](#)の元に偶然届いたチェーンメールに詩が記載されていて、この詩に感銘を受けた角が詩を翻訳、樋口に見せたところ樋口も感銘を受けた。そして「手紙 ～親愛なる子供たちへ～」の曲が生まれ、樋口了一が歌っています。しかし、「手紙～親愛なる子供たちへ～」がヒットした頃からパーキンソン病を患い、現在は治療をしながら活動をしている。佐賀県「認知症県民公開講座」9月26日（土）13：30～16：00 唐津市文化体育館文化ホール唐津市和多田大土井1-1（電話 0955-73-2888）第2部ライブに出演予定です。コミュニティ事務局にチラシ用意しています。（参加費無料）

嬉野小校区地域コミュニティ運営協議会

事務局長 木寺

電話 0954-42-3961

Eメール ureshino-cc@po.ktknet.ne.jp